平成２９年度　学校評価

〇目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
地域に根ざし、生きる力をはぐくむ教育の推進　―自立・協働・創造― 自立・・自分らしさを伸ばしていける子 協働・・助け合って　共に生きる子 創造・・よりよい生き方を実践する子	Ⅰ　自立して未来に挑戦する態度の育成 Ⅱ　子どもたちの学びを支える仕組みの確立 Ⅲ　「生きる力」を育む教育の推進 Ⅳ　家庭や地域と一体となった安全・安心で開かれた学校でくり

領域	評価の観点	評価項目	学校関係者評価 Ａ：優れている　Ｂ：おおむね良好　Ｃ：やや改善　Ｄ：要改善
学校運営	豊かな人間関係をはぐくむ教育活動の推進	あらゆる学校生活場面を通じての自尊感情の育成	Ａが適切な評価である ・挨拶は、社会生活の基盤であり、良好な人間関係づくりの基礎となるので、学齢期に挨拶の大切さを実感させてほしい。学校、家庭、地域それぞれが今後も「あいさつ運動」を習慣化していく。 ・98%以上の子どもや保護者が、「友だちのことを大切にしている」と回答していることは大いに評価できる。 ・今後も全ての子どもが、学校生活に魅力を感じ、自分が誰からも大切にされている存在であることを認識するとともに、一人一人のよさや可能性が一層引き出される明るく元気な学校づくりを組織的に推進してほしい。
		いじめ・不登校の未然防止、早期発見、即対応	Ａが適切な評価である ・核家族化が進むなど、人間関係が希薄になりがちな社会であるだけに、学校で人間的なつながりの大切さを学んでほしい。学校に行きにくい子どもがいなくなったことは、学校をあげての取組の成果である。 ・日々の子どもへの共感的なかかわりやいじめアンケートなどにより、いじめの未然防止、早期発見と組織的な対応に努められている。 ・児童会役員を中心とした朝の挨拶運動、いじめゼロ運動など人権を尊重する取組が自主的に推進され、定着化しつつある。 ・スマートフォンやＳＮＳ等の利用によるネットトラブルを防止するため、親子での勉強会や家庭でのルールづくりを家庭と学校が一体となって推進しなければならない。
課題教育	ふるさと学の推進	「黒井城まつり」や「黒井型体験学習」を通した地域に対する誇りと愛着心の育成	Ａが適切な評価である ・児童数の減少や車社会の進展などにより、人と人との関係が希薄になりがちであるので、意図的な異世代間の交流が大切である。 ・「黒井の地域や人のことがすき」と 99%の児童が回答しているのは、「黒井城まつり」や「黒井型体験学習」の取組の成果である。今年取り組んだ「ペットボトルのイルミネーション」づくりには、たくさんの地域住民の参加があり、好評であった。 ・子どもたちに、ふるさとに対する誇りや愛着心が育ってきている。来年度も地域や保護者と連携して、ふるさと学を積極的に推進してほしい。
教育課程	確かな学力の確立	「わかる、できる」が実感できる授業づくり	Ａが適切な評価である ・国語で 94%、算数で 89%と、ほとんどの子どもが授業がよくわかると答えている。また、保護者もアンケートに約 98%が肯定的な回答をされており、「わかる・できる」が実感できる授業づくりが実践できていると考えられる。 ・研究発表会などを通して、黒井小の取組を広く発信されることは、今後の取組がより充実し、子どもたちの学習に対する興味や関心が深まることにつながると考えられる。
		家庭と連携した生活リズムづくりと家庭学習の充実	Ｂが適切な評価である ・家族のかかわりやふれあいを大切にしてほしい。家庭での居場所づくり、望ましい人間関係を深めることにより、豊かな人格の形成につながる。このことが学力を下支えする力となる。 ・依然として多くの子どもに読書習慣が身についていない。読書習慣の確立のためには、丹波市立図書館の利用や親子での「家庭読書の日」の実施などとともに、余暇時間の過ごし方など、家庭とも連携して進めていく必要がある。

自己評価の実施方法についての評価

1 学期には保護者と児童に教育アンケートを実施し、学習に対する意欲や生活実態を調査した。その結果を地区懇談会「ひとみ輝く黒井っ子を育てる会」で提示し、保護者、地域住民、教職員などの参加者が児童の生活力や学力の向上について話し合う機会を設けることができた。　2 学期にも再度アンケートを実施し、その結果を 1 学期の結果と比較し考察されているので、取組の成果や課題が把握しやすくなっている。3 学期には、成果や課題を考察したものを、保護者に公表し、課題や改善点などを示すなど、適切に情報提供がなされている。

学校関係者評価のまとめ

「豊かな人間関係をはぐくむ教育活動の推進」については、あらゆる学校生活の場面を通して、意図的、組織的に自尊感情や自己有用感を高める取組がなされている。また、子ども同士や子どもと教師との絆づくり、信頼づくりが構築できている。

「ふるさと学の推進」については、「黒井城まつり」などの黒井型体験学習を通して、地域の自然、歴史、産業、人とのかかわりなど、発達段階に応じたふるさと意識の醸成が図れている。

「確かな学力の確立」では、約９割が授業はよくわかると答えており、「わかった」「できた」が実感できる授業づくりが実践できている。家庭学習や家庭読書など、家庭との連携を一層深めることにより、主体的に学習に取り組む意欲や態度が育成されることに期待する。